

## 石川県白山麓におけるトガリネズミの捕獲記録

子 安 和 弘 愛知学院大学歯学部解剖学第二講座  
原 田 正 史 大阪市立大学医学部実験動物研究室  
野 崎 英 吉 石川県白山自然保護センター

### A NOTE ABOUT THE MESUREMENT OF LAXMANN'S SHREW AT ICHINOSE IN HAKUSAN AREA, ISHIKAWA PREFECTURE

Kazuhiro KOYASU, *Second Department of Anatomy, School of Dentistry,  
Aichi-Gakuin University.*

Masashi HARADA, *Laboratory of Experimental Animals, Osaka City  
University Medical school.*

Eikichi NOZAKI, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa Prefecture.*

石川県白山地域におけるホンシュウトガリネズミ(*Sorex caecutiens sinto*)の標本数はそれほど多くはなく、高山帯での死亡個体の記録が多かったことから高山帯に片寄った分布をしているのではないかとの推測もあった(花井 1978)。しかし、白山地域でのその後の死亡個体の記録はこれまで標高540m(石川県白山自然保護センター所蔵標本)という記録もあり、その分布はかなり広いと考えられている(水野・八神 1985)。本種のブナ帯における生息状況の確認と、北アルプスの岐阜県側及び乗鞍岳において生息の確認されているアズミトガリネズミ(*Sorex hosonoi*)(前田・長谷川 1990)の白山石川県側での生息確認のため調査したので報告する。

#### 調査方法・調査日

捕獲には地上に直径8.2cm 深さ13cmの紙コップを上端が地表と同じ高さになるように設置し、墜落した個体が確実に死亡して逃げられないよう深さ2cm程まで水を入れたピットフォールトラップを用いた。

調査地は、石川県石川郡白峰村市ノ瀬の別山道上り口周辺(標高950m付近)と釈迦新道登り口(標高1100m付近)の2か所の道沿いに1990年10月2日と3日、及び1991年10月25日26日に設置し、標本の回収は翌日行った。標本の計測は、Abe(1967)にしたがった。トラップを設置した地点の植生は別山道が広葉樹天然林、釈迦新道はスギ植林と広葉樹二次林の境界部分であった。

#### 結 果

1990年の調査では別山道で1個体、釈迦新道では3個体のホンシュウトガリネズミと1個体のアズミトガリネズミが捕獲され、また、1991年の調査では釈迦新道で2個体のホンシュウトガリネズミと1個体のトガリネズミ sp. が捕獲された(表1)。

表1 今回記録したホンシュウトガリネズミとアズミトガリネズミの測定値(g およびmm)

種名	採集地	採集日	性別	体重	頭胴長	尾長	後足長	前足長	幅	耳長	精巣	標本保管
ホンシュウトガリネズミ	釈迦新道	90.10.03	オス	4.6	58.1	52.2	12.1	7.0	1.6	7.9	1.2*0.6	愛知学院大学歯学部
ホンシュウトガリネズミ	釈迦新道	90.10.03	オス	7.5	65.1	55.3	13.2	7.7	1.9	7.9	5.4*4.0	愛知学院大学歯学部
ホンシュウトガリネズミ	別山道	90.10.04	オス	4.4	54.7	51.5	12.2	7.5	2.9	6.8	1.3*0.8	愛知学院大学歯学部
ホンシュウトガリネズミ	釈迦新道	90.10.04	メス	4.3	56.3	54.5	12.6	7.0	1.8	8.0		愛知学院大学歯学部
ホンシュウトガリネズミ	釈迦新道	90.10.26	メス	4.4	56.3	51.6	12.0	6.9	1.9	8.0		愛知学院大学歯学部
ホンシュウトガリネズミ	釈迦新道	90.10.26	メス	5.2	56.2	53.4	12.0	6.9	1.7	7.9		愛知学院大学歯学部
アズミトガリネズミ	釈迦新道	90.10.03	メス	2.8	52.9	49.7	11.4	6.6	1.6	7.3		愛知学院大学歯学部
<i>Sorex sp.</i>	釈迦新道	91.10.27	メス	4.	57.2	51.5	12.1	6.8	1.7	7.4		愛知学院大学歯学部

これまで、トガリネズミの生息する地域は土壌の発達が悪く、捕獲するためのピットフォールトラップを設置するために穴を掘ることが難しく、多数のトラップの設置ができなかった。今回は、一つの調査地に1990年には17個と1991年には13個と7個のピットフォールトラップ設置することができたために、これだけの個体が採集されたと考えられる。石川県においてはトガリネズミが1か所でこれだけの数が採集された例がない。このことから標高1100m付近のブナ帯にはトガリネズミが多数生息すると推測される。

アズミトガリネズミはこれまで白山山系での捕獲例はなく、日本における新たな産地とすることができる。

1991年の調査の際に釈迦新道で捕獲されたトガリネズミ sp.については、筆者らの一人子安が、種の同定のため、国内および海外の標本も含め検討している。

## 謝 辞

種名同定に際して、第2回(助)藤原ナチュラルヒストリー振興財団の学術研究助成により、比較標本の作成を行なったので、ここに感謝の意を評します。

## 文 献

- Abe H. (1967) Classification and biology of Japanese Insectivora (Mammalia). I. Studies on variation and classification. J. Fac. Agri. Hokkaido. Univ. 55 (3) : 191-265.
- 花井正光 (1978) 白山高山帯の哺乳類相. 石川県白山自然保護センター研究報告, 第4集, 83-92.
- 前田喜四雄・長谷川道明 (1990) 岐阜県の食虫類. 岐阜県博物館調査研究報告第11号, 35-42.
- 水野昭憲・八神徳彦 (1985) 白山亜高山帯・高山帯の動物4. ほ乳類. 白山高山帯自然史調査報告, 石川県白山自然保護センター, 107-111.